

新型コロナ感染拡大は、各地のこども食堂を休止に追い込みました。そんななか、埼玉県川口市の「わっか食堂」は、子どもたちの居場所をなくさないようにと毎週土曜日欠かさず開いています。
(小酒井自由)

コロナ禍「わっか食堂」続ける思い

埼玉・川口



昼食の準備をするボランティア

5月1日、正午すぎに子どもたちが集まりだしました。この日のメニューは、ほろほろの豚の角煮と味がしみた煮卵、温野菜。ポリユームも満点です。
食後はボランティアの青年とカードゲームで遊んだり、スマホで音楽ゲームを楽しんだりするなどそれぞれが自由に過ごします。解散時間になってもなかなか帰らない子どもたちの姿がいつもあります。
現在コロナ対策として、▽机に簡易パーティションを置き、ひとりずつ区切って食事する▽食事以外はマスク着用▽アルコール消毒▽体調の悪い人は休んでも

子どもの居場所を守る



カードゲームなどで遊ぶ子どもたち

らうーなどを行っていません。
「わっか」は、小学生から20歳まで約20人が利用しています。親子での活動も。2016年4月に活動を始めました。
会場が使えなく

る「わっか」を休むという選択肢はなかった。スタッフの一人から「今やらなくていつやる」と言われたことも後押しになった」と当時を振り返ります。
同年3月以降は、飲食店を営むメンバーの店などに会場を移しながら、8月に同市内の一軒家を借りた開催に落ち着きます。正月以外は休まずにやってきました。
石川さんは「わっか」には、不登校で学校とつながりがいない子や、世間になじめない子など「つながりの貧困」を抱えた子どもたちがいます。「わっか」に来た子が誰かとつながれるように」と、続ける思いを語ります。
昨年は安倍晋三首相(当時)が突然、一律休校を宣言し混乱を招きました。子どもたちは「長期休校で狂った曜日感覚を『わっか』で取り戻せた」「バイトか家で寝る日々のなかで『わっか』にいけば友達に会えて、みんなと遊べたことがストレス発散になった」と声を上げます。
どんな状況でも
NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえの調査によると、今年2月時点で「一堂に会してのこども食堂」の開催は11.9%となる一方、感染対策が難しく「再開予定が立たない」と回答した団体は50.7%にのぼります。
石川さんは笑顔で答えます。「こを子どもたちのよりどころにしたい。どんな状況でも続けますよ」